

今年「深澤記念年」

～ 生誕110年 没後50年 ～

今年、深澤晟雄村長が現職で亡くなった昭和40

(1965)年から没後50年、明治38(1905)年

から生誕110年という大きな節目を迎えました。

この深澤年を記念して深澤晟雄の会では関係機関・団体との協賛を得て、小中高生による「生命尊重の心をつなぐ作文コンクール」を行います。生命尊重の深澤精神を後世に伝えようとするもので、学校を通じて作文募集を行うことにしています。

また、町立西和賀さわうち病院では、旧沢内病院が昨年「病院開設60周年」でしたが、新病院建設のため記念行事を延期していました。深澤年に60周年

4月から通常開館

深澤晟雄資料館は4月から火曜日休館とする通常開館をしています。また、5月の連休は毎日開館し、連休明けの7日を休館日とします。お知らせします。

「生命尊重行政」海外に発信

途上国から母子保健研修

1月26日から2日間、タイやカンボジア、ベトナムなど発展途上国6カ国・9人の母子保健に携わる医師や行政関係者の研修を西和賀町で受け入れました。

初日の26日は深澤晟雄資料館で記録映画「自分たちで命を守った村」の英語版を観賞、50年前の乳児死亡率ゼロ達成

の「深澤生命行政の歩み」を資料館ガイドが英語通訳入りで説明しました。

2日目の27日は沢内庁舎で細井町長の歓迎の言葉があった後、元保健師の高橋和子さん、深澤久子さんのお話や当時母子保健施策のサービスを受けた高橋サメさんの対話などを通して深澤村長の生命行政を学びました。

深澤村長没後50年の命日(28日)を翌日に控え、「生命尊重と世界平和は一体」という深澤理念を、確認しあつて本町での研修を終えました。



記念事業を行うことで、新病院が深澤精神を継承し、「生命の尊厳・尊重の新たな拠点」を担う門出にしたいと話しています。

その病院事業に深澤晟雄の会の「深澤年の記念事業」も併せて8月22日に開催することで病院との協議を進めています。

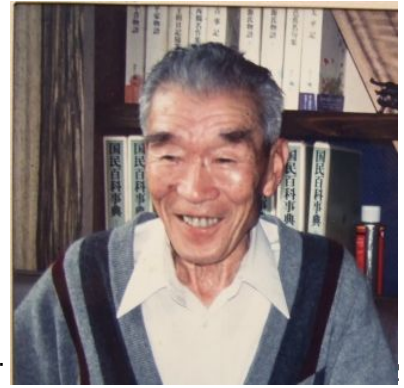
金一封に感謝

- | | |
|----------|---------|
| 東京都昭島市 | 山中 幸子様 |
| 西和賀町沢内 | 有馬 絹様 |
| 埼玉県さいたま市 | 高田 健様 |
| 埼玉県さいたま市 | 箕輪 君夫様 |
| 宮城県仙台市 | 菅原 寿江様 |
| 福島県いわき市 | 川崎 美和子様 |
| 福島県福島市 | 佐藤 和子様 |
| 愛知県名古屋市 | 柳沢 英子様 |

旧沢内村の人生楽園文集「あしあと」から

故高橋清吉さんの

「私の歩んだ道」 ③



稲荷神社祭典には清吉さん宅に関係村職員が招待された。

＜清吉さんの表彰歴 ②＞

- 昭 51. 11. 3 勲 7 等瑞宝章を受章
- 56. 11. 14 老人医療費無料化等独創的な
施策発案功績（無料化 20 周年記念式）
- 58. 5. 15 自衛隊父兄会の目的達成に貢
献（全国自衛隊父兄会岩手県支部長）
- 60. 9. 14 小児保健で多大なる尽力に若
生賞を授与（岩手県小児保健協会長）

～次号につづく～

深澤村長と加藤病院長とつむぎ

保健活動と衛生行政に岩手医大
学生受け入れの問題、一般会計の繰
入金や滞納金と国庫補助金の関係
等、国保財政について国保連合会の
指導で計画することができた。

そして深澤助役が村長になると
同時に保健婦を採用し、医学生を受
け入れて本格的に保健活動開始と
なり、部落ごとに保健連絡員を置
き、蚊・蠅・回虫駆除から、衛生行
政の清潔方法に参加した疾病予防
活動となった。特に乳幼児に関して
は、その家庭の主婦と老人たちの育

外給付とを区別して診療報酬支払
いを考えたが、村外医療機関や報酬
支払いの法関係で実現しなかった。

昭和 35 年、加藤邦夫院長が来た
とき、また病院事務長を命じられ
て、病院勤務となって加藤院長とは
赤字解消と保健活動の問題、村外医
療機関と国保連や診療報酬算定問
題、そして保健研究会から調査会の
ことで、昭和 42 年退職するまで、
議論したりお世話になった。

役場生活約 25 年間、私の第二の
絵にもならない国保業務に、何一つ

児指導と早期診療普及に、保健婦の
家庭訪問を強化のため、村北・中
央・村南の三地区に分け、保健婦を
駐在させ、国保連の乳児死亡率半減
運動十か年計画に参加して、岩手医
大小児科教室の畠山富而先生を知
り、その応援を得ることができ僅か
三年ほどで半減以上の成績となり、
死亡率 0 運動を開始した。

満足なこともできないでヘマなこ
とばかりで、よくも首にならず大過
なく過ごすことができたものだと、
今更ながら当時の先輩・同僚たちに
感謝している。ヘマも失敗も困難も
過ぎ去ってみれば、なつかしく楽し
みの一つであり、感無量のものがあ
る。

～前号の訂正とお詫び～

当時、直営病院医師が安定せず赤
字となり、国保会計や一般会計から
繰入れしなければ病院経営は困難
となった。直営診療給付と直営病院

上段 6 行目「会って」⇒「あつて」
14 行目「保健課」⇒「保険課」に、
下段 6 行目「商品」⇒「賞品」に訂
正し、誤植を深くお詫びします。